地域を越えた歴史文化の視点

# 29.　中世城郭と山岳寺院

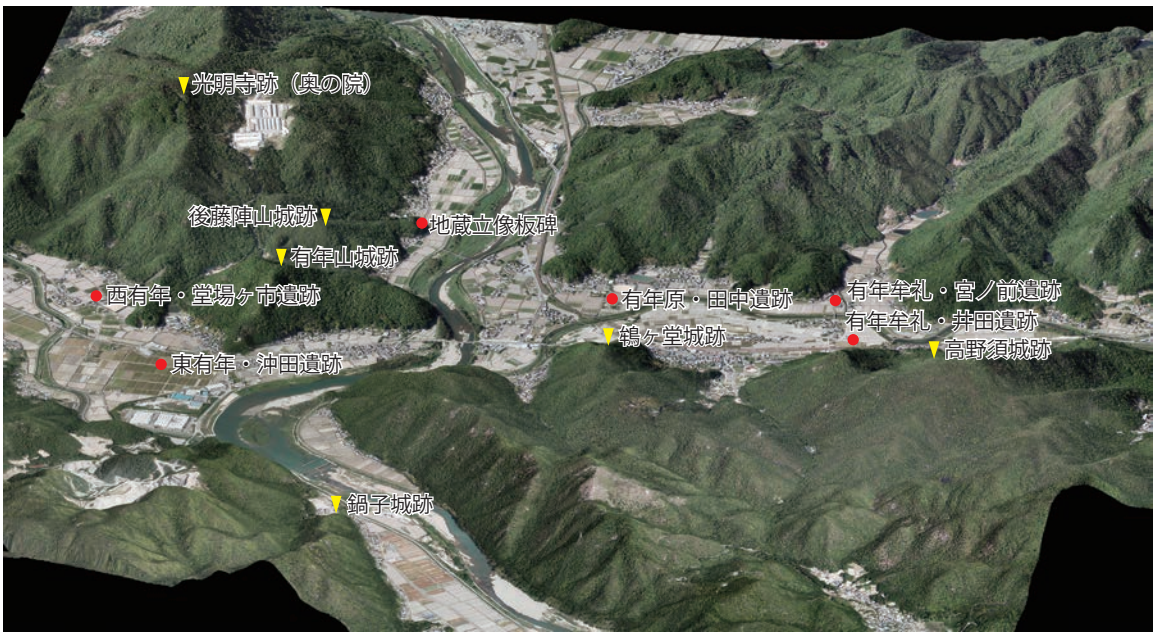
【ストーリー】

鎌倉時代から室町時代の播磨は、戦乱に明け暮れた時代であった。市内には、陸上交通の要であった有年地域や、海上交通の拠点であった坂越地域に山城が多数築かれたほか、当時急速に陸地化していた河口部には加里屋古城が築かれるなど、赤穂が戦略的な拠点として機能し始めていた。

これらの山城を築いた有力者たちの居館として、東有年・沖田遺跡において大規模な建物跡が発見されている。

戦乱にあけくれた時代はしかし、祈りの時代でもあった。このころには、山にこもって厳しい修行に励む山岳信仰が流行しており、赤穂でも、特に有年地域を中心として複数の山岳寺院が築かれるようになった。

山岳寺院が山を下りて営まれるようになるのは中世でも末期頃であり、この頃に出来たのが、加里屋古城周辺（現在の市街地）の寺院であった。

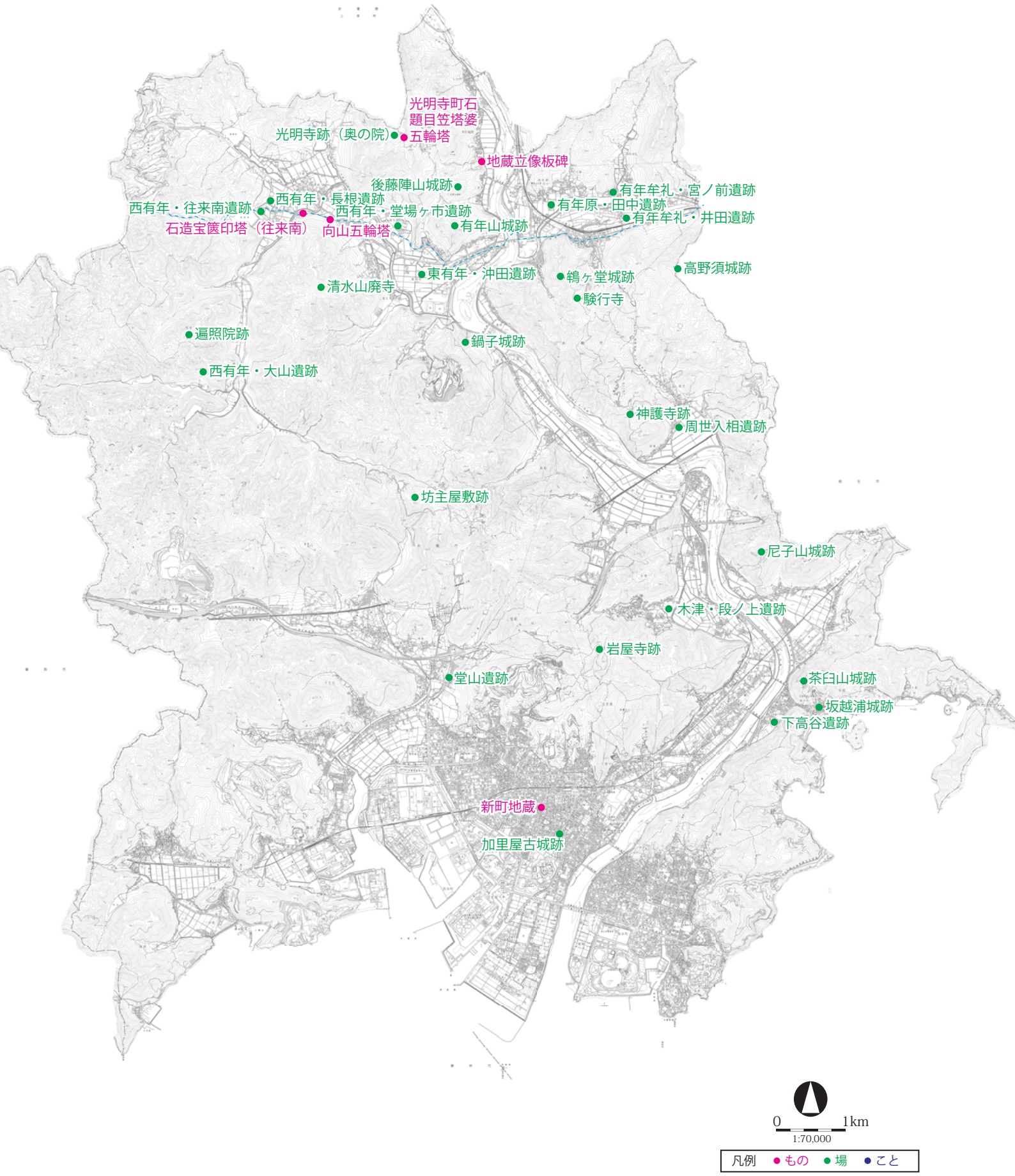


有年地区の山城跡等の分布

新町地蔵

茶臼山城跡・坂越浦城跡　（撮影：出水伯明）

尼子山城跡


光明寺町石
題目笠塔婆
光明寺跡（奥の院）
五輪塔
地蔵立像板碑
後藤陣山城跡
西有年・長根遺跡
西有年・往来南遺跡
西有年・堂場ヶ市遺跡
石造宝篋印塔（往来南）
向山五輪塔
有年山城跡
有年牟礼・宮ノ前遺跡
有年原・田中遺跡
有年牟礼・井田遺跡
高野須城跡
東有年・沖田遺跡
鴉ヶ堂城跡
清水山廃寺
験行寺
遍照院跡
鍋子城跡
西有年・大山遺跡
神護寺跡
周世入相遺跡
坊主屋敷跡
尼子山城跡
木津・段ノ上遺跡
岩屋寺跡
堂山遺跡
茶臼山城跡
坂越浦城跡
下高谷遺跡
新町地蔵
加里屋古城跡
0
1km
1:70,000
凡例　もの　場　こと